

# 学習指導案集

## 研究主題

### 生命尊重と思いやりの心をもった生徒の育成



アンケート結果は本校ホームページに掲載しております。

令和8年2月13日(金)

武蔵村山市立第五中学校



本校ホームページ二次元コード

# 「総合的な学習の時間」 学習指導案

日付	令和8年2月13日(金)
日時	第5校時 13:45~14:35
対象	1学年全クラス 162名
学校名	武蔵村山市立第五中学校
授業者	1年1組 市川 晃輝 1年2組 宮下 萌 1年3組 和田 遼 1年4組 大瀬 之重 1年5組 天野 真平
会場	1階 1年各教室

## 1 単元名

まちづくり学習

武蔵村山市の高齢者のことについて考え、KKM（高齢者が暮らしやすい武蔵村山）を目指し、自分たちの考えを発信しよう。

## 2 単元の目標

- ・武蔵村山市を、もっと暮らしやすいまちにすることについて、自分なりの考えをもち、進んで計画を立てて調べたり、表現したりしようとするを通じて、主体的に学習する態度を高める。
- ・課題解決のために、必要な情報を整理・分析し、意欲的にまとめたり、発表することを通じて、発信力やプレゼンテーション能力を高める。
- ・武蔵村山市をよりよいまちにするために、特に高齢者のために何ができるかを考え、話し合い、まちづくりに参画する意義や、これまでまちをつくってきた人々に対する尊敬の心をもち、地域に対する思いをより一層深める。
- ・人権課題『高齢者』を意識し、武蔵村山市をよりよいまちについて考えることで、共生社会の実現について考え、理解を深めるとともに、生命尊重や思いやりの心を育む。

## 3 単元の評価規準

- ・武蔵村山市を暮らしやすいまちにすることについて自分なりの考えをもち、進んで計画を立てて調べたり、表現したりしようとしている。〔評価材料：発言・行動観察・ワークシート〕
- ・武蔵村山市のまちづくりについて、高齢者にとって暮らしやすいまちのプレゼンテーションの構成を分かりやすくまとめたり、自分の言葉で説明したりしている。〔評価材料：発言・行動観察・ワークシート〕
- ・武蔵村山市のまちをつくってきた方々に対する尊敬の心や親しみをもち、地域の一員としての自覚や地域を愛する心情を大切にしている。〔評価材料：発言・行動観察・ワークシート〕

## 4 指導について

### (1) 教材観

本単元は、本市が力を入れている『生きる力』をつけるために「自らの力で行動する」ということをテーマにした「まちづくり学習」を教材化したものである。変化の激しいこれからの社会を生き抜き、多摩都市モノレール延伸が決定した武蔵村山市の担い手として活躍できるようにするためには、地域を理解し、地域の方と一体となって、主体的に行動できる生徒の育成が重要である。

このテーマは、小学校では「昔の暮らし」「戦時中の暮らし」など高齢者という視点に対し、系統的に学習を積み重ねており、生活科や社会科を中心とした教科に、国語科のインタビュー、手紙の執筆、発表などを関連させたり、図工で必要な道具を製作したりと、教科学習との関連性が図られている。中学校では、その既習事項を生かし、市民性の育成や地域の抱える問題の改善まで発展させるために、この単元を設定した。さらに、本校の人権学習の中心テーマである、高齢者・子どもの学習（1学年）、障がい者の学習（2学年）を題材にしていることから、「生命尊重」や「思いやり」と関連付け、幅広く思考を進めさせたい。

以上の視点から、地域の理解、特に高齢者という部分に焦点を当てて、武蔵村山市が抱える高齢者の課題に目を向ける姿勢を含め、それを解決するためにどのようなことができるかという考えを中学生の視点から主体的に考え、地域に貢献しようとする生徒を育てるために、この単元は価値あるも

のである。

## (2) 生徒観

事前授業では、話をしっかりと聞き理解しようとする姿勢があり、積極的に高齢者について考えようとする雰囲気がある。しかし、中には集中力が持続せず、すぐに諦めてしまう傾向にある生徒もいる。素直で心優しい生徒が多いため、地域の課題や発展というテーマに直面させることで、力になりたい、どうにかしたいと願う生徒を育成していきたい。また、ICT 機器を使用した授業に対しても積極的に参加をしている傾向にある。授業の展開時には、映像資料の活用や ICT 機器を使用した調べ学習等を実施することにより、すべての生徒に授業への関心を引き出し、教科の学習とは違った達成感・成就感を目標に、積極的に授業へ参加できる環境作りをしていきたい。

## (3) 指導観

はじめに、本単元の導入では、「高齢化社会」とはどのような社会のことなのかに触れる。そこから「高齢者」について考えていくためのきっかけ作りとし、武蔵村山市の高齢者に目を向ける姿勢を作っていく。

「モノレールの延伸」に偏りがちな地域の話だが、改めて、中学生らしく市内を俯瞰的に捉え、魅力あるまちづくりとは何かを考えさせる。その上で1学年では「武蔵村山市の高齢者が暮らしやすいまちとは」という視点で高齢者について考えていく。

また、市出前講座のゲストティーチャーを活用しつつ、実際に市職員からの生の話を聞き、武蔵村山市の高齢者の実情を知ること、自分の住んでいる市のことという自分事として捉える視点を養う。

それだけでなく高齢者体験を通し、実際に高齢者になった際に何に苦労することになるのかを体験することで、さらに高齢者に対しての知見を広げていく。

これらの学習で、学んだことを整理し、各学級で「①ひとり暮らしについて」「②病院に行かない、診断を受けない」「③一人歩きについて」「④交通状況や買い物等について」「⑤介護ヘルパー不足」「⑥環境、地形、災害時への対応」の6つの視点について班ごとにまとめていき、地域を支える市民として、自信と自覚が深められた形にまとめていきたい。自分たちの考えた取組が地域貢献に繋がったという感情や自己有用感が、「暮らしやすいまちづくり」を考える原動力となっていくと考える。

## 5 年間指導計画における位置付け

「高齢者への理解」を中心とした人権学習等の各総合的な学習の時間のテーマに関連する。今年度、特色ある学校づくりの研究指定で、総合的な学習の時間を再構成して、「まちづくり学習」を中心に据えて取り組む年間指導計画を立てた。教科等横断的な学習の視点を取り入れながら総合的な学習の時間として最適な時期に位置付けた。

## 6 単元の評価規準

評価の観点		
ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① “まちづくり” という視点で、武蔵村山市の高齢者の課題が何かを理解できる。 ② 資料やインターネット、講話など、目的に応じた情報収集の仕方を考え、得た情報の比較・分類の方法を理解している。	① “まちづくり” という視点で、武蔵村山市の高齢者の課題に対し、解決方法や手順を考え、見通しをもつことができる。 ② 収集した多様な情報を、整理・分析し、武蔵村山市の高齢者が抱えている課題を解決する方法についてまとめ・表現することができる。	① “まちづくり” という視点で、武蔵村山市の高齢者に関心を持ち、課題やその課題に対する解決方法を、自分なりの工夫をしながら考えたり見付けたりしようとしている。 ② 武蔵村山市の高齢者が抱える課題に対する解決方法を他者の考えを受け入れ尊重しながら、協働して考えようとしている。 ③ 武蔵村山市の抱える高齢者の課題について解決策を進んで考え提案しようとしている。

7 単元（題材）の指導計画と評価計画（全14時間）

時数	目 標	学習内容と活動	学習活動に即した具体的な評価規準(評価方法)
第1時	「まちづくり学習」ガイダンス 高齢者の定義について理解しよう	○授業の流れ、高齢者の定義を理解。	行動観察 ワークシート（イー①）
第2時	市役所の方の講話から「武蔵村山市における高齢者の現状と課題」について知識を深めよう。	○ゲストティーチャーの講話、アドバイス。	行動観察 ワークシート（アー①、アー②）
第3時	講話から高齢者が抱える問題点・課題点を整理し、発表しよう。	○各班の意見を班発表し合う。	行動観察 ワークシート（イー②）
第4時	高齢者体験を通して、高齢者の視点で物事を考えられるようになるろう。	○高齢者の視点で物事を考えられるようにする。	行動観察（アー①）
第5時	高齢者体験学習を通して、気付いたことを班で話し合おう。	○班内で意見交換。	行動観察 ワークシート（アー①）
第6時	各テーマに応じて、現状・課題・解決策を考えよう①	○役割分担をして、魅力を高める工夫の情報収集	行動観察 ワークシート（イー①）
第7時	各テーマに応じて、現状・課題・解決策を考えよう②	○役割分担をして、魅力を高める工夫の情報収集	行動観察 ワークシート（イー②）
第8時	各テーマに応じて、現状・課題・解決策を考えよう③	○役割分担をして、魅力を高める工夫の情報収集	行動観察 ワークシート（イー②）
第9時	提案事項の発表に向け、グループで話し合おう。	○発表に向け提案の再調整	行動観察 ワークシート（ウー②）
第10時	提案事項の発表に向け、パワーポイントにまとめよう①	○提案事項の発表に向けた進捗確認	行動観察 ワークシート（ウー①）
第11時	提案事項の発表に向け、パワーポイントにまとめよう②	○提案事項の発表に向けた進捗確認	行動観察 ワークシート（イー①、ウー②）
第12時	提案事項の発表に向け、パワーポイントにまとめよう③	○提案事項の発表に向けた進捗確認	行動観察 ワークシート（ウー③）
第13時	提案事項の発表に向け、パワーポイントにまとめよう④	○提案事項の発表に向けた進捗確認	行動観察 ワークシート（ウー②）
第14時 （本時）	武蔵村山市の高齢者の現状・課題・解決策の発表会を通して、「高齢者が暮らしやすい武蔵村山市」について理解を深めよう。	○発表会	行動観察 ワークシート（イー②、ウー③）

## 8 指導に当たって

- (1) 授業形態の工夫…高齢者が暮らしやすい武蔵村山市にするためのアイデアを話し合い、発案したことを分かりやすく発表するためのスライド作成が主となる。身近な地域が題材なので、生徒に状況場面を意識させた活動を行い、生徒の関心意欲を引き出していきたい。
- (2) 指導方法の工夫…端末を使用し調べ学習を行うが、班で協力し合い、表現する時に、「正確な情報」、「わかりやすい発表」、「見やすいまとめ」を意識させ、関心・意欲につなげていきたい。

## 9 本時（全 14 時間中の第 14 時） 「KKM プロジェクト」 クラス発表会

- (1) 本時の目標 武蔵村山市の高齢者の現状・課題・解決策の発表会を通して、「高齢者が暮らしやすい武蔵村山市」について理解を深めよう。

### (2) 展開

時間	学習内容 ・ 学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 4分	○本時の目標（学習活動・学習の流れ）の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会進行は生徒に行わせる。</li> <li>・教員は時間の管理をしながら適宜支援する。</li> </ul>	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各クラスでテーマに基づいて作成したものについて発表会を行う。</li> <li>・グループで、端末を用いる。</li> <li>・各班の発表後に、それぞれの班の発表内容をまとめ、ワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・端末の投影機能を使用し、発表する。（担任が支援するが巡回教員も補助する） (6班×6分=32)</li> <li>・端末とモニターの接続については教員が行う。</li> <li>・発表中はメモを取る程度にし、発表をしっかりと聞くように促す。（司会進行から）</li> <li>・発表に自信がない生徒はメモを見ながら話すことを促す。</li> </ul>	[行動観察] (イー②、ウー③)
まとめ 6分	○本時の振り返り KKM プロジェクトを通しての感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを使い、他の班の発表も踏まえ、感想を書かせる。</li> <li>・これからの『武蔵村山市』を良くしていくのは、どれだけ自分たちの市のことを考えられるかということを伝える。</li> </ul>	[ワークシート] (ウー③)

### (3) 本時の評価

- ・武蔵村山市を、高齢者の暮らしやすいまちにすることについて、自分なりの考えをもち、進んで計画を立てて調べたり、表現したりしようとしている。
- ・課題解決のために、専門家の出前授業や必要な情報を整理・分析し、意欲的にまとめ、発表し、発信力やプレゼンテーション能力を高めている。
- ・武蔵村山市を高齢者のためにより良いまちにするために、何ができるかを考え、話し合い、これまで高齢者のために尽力してきた人々に対する尊敬の心をもち、地域に対する思いをより一層深めている。

## 「総合的な学習の時間」 学習指導案

日 時	令和 8 年 2 月 13 日 (金) 第 5 校時 13:45~14:35
対 象	2 学年全クラス 175 名
学校名	武蔵村山市立第五中学校
授業者	2 年 1 組 福島 久哲 2 年 2 組 佐々木 宥夢 2 年 3 組 神山 晴江 2 年 4 組 今田 陸哉 2 年 5 組 内田 一雄
会 場	3 階 2 年 各 教 室

### 1 単元名

まちづくり学習

私たち 2 年生が「五中版まちづくり協議会」を開いて、MMM（魅力ある武蔵村山）を目指し、自分たちの考えを発信し、実現しよう！

### 2 単元の目標

- ・武蔵村山市を、もっと住みやすいまちにすることについて、自分なりの考えをもち、進んで計画を立てて調べたり、表現したりしようとするを通じて、主体的に学習する態度を高める。
- ・課題解決のために、必要な情報を整理・分析し、意欲的にまとめたり、発表することを通じて、発信力やプレゼンテーション能力を高める。
- ・武蔵村山市をよりよいまちにするために、何ができるかを考え、話し合い、「五中版まちづくり協議会」を経験することを通して、まちづくりに参画する意義や、これまでまちをつくってきた人々に対する尊敬の心をもち、地域に対する思いをより一層深める。
- ・人権課題『障がい者』も意識し、武蔵村山市をよりよいまちについて考えることで、共生社会の実現について考え、理解を深めるとともに、生命尊重や思いやりの心を育む。

### 3 単元の評価規準

- ・武蔵村山市を住みやすいまちにすることについて自分なりの考えをもち、進んで計画を立てて調べたり、表現したりしようとしている。〔評価材料：発言・行動観察・ワークシート〕
- ・武蔵村山市のまちづくりについて、住みやすいまちのプレゼンテーションの構成を分かりやすくまとめたり、自分の言葉で説明したりしている。〔評価材料：発言・行動観察・ワークシート〕
- ・武蔵村山市のまちをつくってきた方々に対する尊敬の心や親しみをもち、地域の一人としての自覚や地域を愛する心情を大切にしている。〔評価材料：発言・行動観察・ワークシート〕

### 4 指導について

#### (1) 教材観

本単元は、本市が力を入れている『生きる力』をつけるために「自らの力で行動する」ということをテーマにした「まちづくり学習」を教材にしたものである。変化の激しいこれからの社会を生き抜き、多摩都市モノレール延伸が決定した武蔵村山市の担い手として活躍できるようにするためには、地域を理解し、地域の方と一体となって、主体的に行動できる生徒の育成が重要である。

このテーマは、小学校では、「まち探検」「地域の産業調査」「地域の環境調査」「地域の歴史調査」など系統的に学習を積み重ねており、社会科や理科を中心とした教科に、国語科のインタビュー、手紙の執筆、発表などを関連させたり、図工で必要な道具を製作したりと、教科学習との関連性が図られている。中学校では、その既習事項を生かし、市民性の育成や地域環境の改善まで発展させるこの単元を設定した。2 学年は、職場体験が大きな行事として組み込まれ、生徒が地域に対し、理解を深めるには最適の学年である。さらに、本校の人権学習の中心テーマである、高齢者・子どもの学習（1 学年）、障がい者の学習（2 学年）を題材にしていることから、「生命尊重」や「思いやり」と関連付け、幅広く思考を進めさせたい。

以上の視点から、地域の理解、さまざまな職業分野に対する興味・関心、社会や働き方に目を向ける姿勢を含め、主体的に地域に貢献しようとする生徒を育てるために、この単元は価値あるものである。

## (2) 生徒観

本学年の生徒は、話をしっかりと聞き理解しようとする姿勢があり、積極的に発言をする雰囲気もある。しかし中には、話し合い、意見発表に苦手意識がある生徒もおり、集中力が持続せず、すぐに諦めてしまう傾向にある生徒もいる。一方で、身近な地域や時事的な話題に関心を持ち、積極的に学習に参加しようと努力を示す生徒もいる。素直で心優しい生徒が多いため、地域の課題や発展というテーマに直面させることで、力になりたい、どうにかしたいと願う生徒を育成していきたい。また、ICT機器を使用した授業に対しても積極的に参加をしている傾向にある。授業の展開時には、映像資料の活用やICT機器を使用した調べ学習等を実施することにより、すべての生徒に授業への関心を引き出し、教科の学習とは違った達成感・成就感を目標に、積極的に授業への参加できる環境作りをしていきたい。

## (3) 指導観

はじめに、本単元の導入では、1学年の「身近な人の職業調べ」、「プロから学ぶ」等を思い出し、地域の中で、地域の人に支えられて成長するという事に触れる。また、避難訓練等で繰り返し講話に出る「自助・共助・公助」という視点で、中学生が地域の重要な担い手であることにも触れる。

「モノレールの延伸」に偏りがちな地域の話柄だが、改めて、中学生らしく市内を俯瞰的に捉え、いくつかの視点を例示し、魅力あるまちづくりとは何かを考えさせる。その視点は、「安心・安全で、健康に生活できる“まち”」、「中学生も、若者も高齢者も障がいのある人も、すべての人が活躍できる“まち”」、「環境や自然を大切に、将来に夢を持ち、持続可能な発展をする“まち”」の3点とする。これらは、中学校での学習の中で各教科、総合的な学習の時間、特別の教科 道徳、特別活動に共通する骨格であり、小学校までの学習の発展としては非常に分かりやすい視点であると考えている。

また、市出前講座のゲストティーチャーからアドバイスをいただいたことで、自分たちが行っている「魅力ある武蔵村山」をつくるための活動の方向性がより具体的になり、どのように実現させるかなどのより具体的な活動につながり、学習の意欲は高まると期待できる。

これら、前半の学習で、出されたテーマを整理し、各学級でより深く掘り下げていくことで、具体的な提案にまとめることができると期待している。まとめは、「地域の中で、地域の人に支えられて成長する」ということを再認識させたうえで、2学年の職場体験や、来年度の進路選択の土台として、地域を支える市民として、自信と自覚が深められた形にまとめていきたい。自分たちの取組で地域が盛り上がったという感情や自己有用感が、「住み続けられるまちづくり」、「働きがい」、「経済成長」を考える原動力となっていくと考える。

## 5 年間指導計画における位置付け

「職場体験」を踏まえた地域理解、「障がいのある人の理解」を中心とした人権学習、大きな視点で地域をとらえた「東京の学習」等の各総合的な学習の時間のテーマに関連する。今年度、特色ある学校づくりの研究指定で、総合的な学習の時間を再構成して、「まちづくり学習」を中心に据えて取り組む年間指導計画を立てた。教科等横断的な学習の視点を取り入れながら総合的な学習の時間として最適な時期に位置付けた。

## 6 単元の評価規準

評価の観点		
ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
③ “まちづくり”という視点で、武蔵村山市の特徴と課題及びそれに携わる人々や組織の存在、思いや願いがわかる。 ④資料やインターネット、講話など、目的に応じた情報収集の仕方考え、得た情報の比較・分類の方法を理解している。	④ “まちづくり”という視点で、武蔵村山市の良さや携わる人々の思いをふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもつことができる。 ⑤収集した多様な情報を、整理・分析し、武蔵村山市を良くするための提案、またその提案を実現させるための方法についてまとめ、表現することができる。	① “まちづくり”という視点で、武蔵村山市に関心を持ち、より良くするための提案、またその提案を実現させるための方法を、自分なりの工夫をしながら考えたり見付けたりしようとしている。 ②提案実現について、他者の考えを受け入れ尊重しながら、協働して考えようとしている。 ⑥自分たちにできる武蔵村山市をより良くするための実現方法を、進んで考え提案しようとしている。

7 単元（題材）の指導計画と評価計画（全 19 時間）

時数	目 標	学習内容と活動	学習活動に即した具体的な評価規準(評価方法)
第 1 時	「まちづくり学習」ガイダンス 武蔵村山市の良いところを探そう	○班学習での意見交換	行動観察・ワークシート・ 発言（ア－①、イ－①）
第 2 時	市内の取組を参考にMMMの アイデアを出し合おう	○プロモーションビデオ 視聴 ○キー・ワードの列挙 ○マインドマップの利用	行動観察・ワークシート・ 発言（ア－②、イ－①）
第 3 時	各クラスでテーマを決め、テ マごとに学習を深めよう①	○テーマを分担して、魅力 を高める工夫の情報収集	行動観察・ワークシート・ タブレットへのまとめ （イ－②）
第 4 時	各クラスでテーマを決め、テ マごとに学習を深めよう②	○発表会で評価し合う	発言・行動観察・ワークシ ート・プレゼン（ウ－①）
第 5 時	各テーマに応じて提案事項を まとめ、発表準備をしよう①	○テーマを分担して、魅力 を高める工夫の情報収集	発言・行動観察・ワークシ ート・プレゼン （ア－②、ウ－①）
第 6 時	各テーマに応じて提案事項を まとめ、発表準備をしよう②	○テーマを分担して、魅力 を高める工夫の情報収集	行動観察・ワークシート （ア－②、ウ－①）
第 7 時	各テーマに応じて提案事項を まとめ、発表準備をしよう③	○テーマを分担して、魅力 を高める工夫の情報収集	行動観察・ワークシート （ア－②、ウ－①）
第 8 時	クラスメイトの提案を聞き、テ ーマへの理解を更に深めよう。 ①	○発表会で評価し合う	ワークシート・発表内容 （イ－②、ウ－③）
第 9 時	クラスメイトの提案を聞き、テ ーマへの理解を更に深めよう。 ②	○発表会で評価し合う	ワークシート・発表内容 （イ－②、ウ－③）
第 10 時	市役所の方の講義から自分の 提案を更に良くしていこう。	○発表会 ○ゲストティーチャーの 講義、アドバイス	行動観察・ワークシート （ア－①、ウ－②）
第 11 時	ゲストティーチャーの講義か ら提案事項について見直そう。	○実現までのプロセスの 確認 ○提案の再調整	行動観察・ワークシート （イ－①、イ－②）
第 12 時	提案事項の実現に向け、グル ープで話し合おう①	○実現までのプロセスの 確認 ○提案の再調整	行動観察（班活動）・ワー クシート・発言 （イ－①、ウ－①）
第 13 時	提案事項の実現に向け、グル ープで話し合おう②	○実現までのプロセスの 確認 ○提案の再調整	行動観察（班活動）・ワー クシート・発言 （ウ－②）
第 14 時	提案事項の実現に向け、グル ープで話し合おう③	○実現までのプロセスの 確認 ○提案の再調整	行動観察（班活動）・ワー クシート・発言 （ウ－③）
第 15 時	提案の実現に向けた軌跡をパ ワーポイントにまとめよう①	○提案実現の進捗確認	行動観察・パワーポイント （ア－②）
第 16 時	提案の実現に向けた軌跡をパ ワーポイントにまとめよう②	○提案実現の進捗確認	行動観察・パワーポイント （イ－①）
第 17 時	提案の実現に向けた軌跡をパ ワーポイントにまとめよう③	○提案実現の進捗確認・ま とめ	行動観察・パワーポイント （イ－②）
第 18 時 （本時）	提案事項の成果と課題の発表 会を通して、「魅力ある武蔵 村山市」について理解を深め よう。	○クラス発表会	ワークシート・発表内容 （イ－②、ウ－③）
第 19 時	学年発表会を通して、5つの テーマから「魅力ある武蔵村 山市」について考えよう。	○学年発表会	ワークシート （ウ－②）

## 8 指導に当たって

- (1) 授業形態の工夫…話し合い、タブレットを利用した情報収集とまとめ、成果と課題の発表が主となる。身近な地域が題材であり、自分の興味のある職業、将来の夢に関係する内容なので、生徒に状況場面を意識させた活動を行い、生徒の関心・意欲を引き出していきたい。
- (2) 指導方法の工夫…端末を使用し調べ学習を行うがその中で調べたものを表現する時に、「正確な情報」「わかりやすい発表」、「見やすいまとめ」を意識させ、関心・意欲につなげていきたい。

## 9 本時（全 19 時間中の第 18 時）

- (1) 本時の目標 提案事項の成果と課題の発表会を通して、「魅力ある武蔵村山」について理解を深めよう。
- (2) 展開

時間	学習内容 ・ 学習活動	指導上の留意点 ・ 配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 4分	○本時の目標 (学習活動・学習の流れ) の確認	・司会進行は生徒に行わせる。	
展開 40分	○各クラスで、提案事項の成果と課題の発表会を行う。 ・グループで、タブレット端末とモニターをつなぎ成果と課題の発表を行う。 ・発表を聞いている人はワークシートに発表しているグループの成果と課題の記入を行う。 ・発表を聞いての一言感想も書く。	・発表については各班 6 分程度を想定している。 (6 班×6 分=36 分) ・タブレット端末とモニターの接続については教員が行う。 ・発表中はメモを取る程度にし、発表をしっかりと聞くように促す。(司会進行から) ・発表終了後、1 分程度まとめる時間を取る。	発表内容 (イー②、ウー③)
まとめ 6分	○本時の振り返り ・MMM プロジェクトを通しての感想を書く。	・これからの『武蔵村山市』を良くしていくのは、どれだけ自分たちの市のことを考えられるかということを伝える。	ワークシート (ウー③)

### (3) 本時の評価

- ・武蔵村山市を、もっと住みやすいまちにすることについて、グループとして成果と課題をまとめそれを聞き手に分かりやすいように表現している。
- ・武蔵村山市をよりよいまちにするために、何ができるかを考え、話し合い、「発表会」を通して、まちづくりに参画する意義や、これまでまちをつくってきた人々に対する尊敬の心を持ち、地域に対する思いをより一層深めている。



～花いっぱい運動～



～MM フェスティバル～

